

【足立区地域自立支援協議会こども部会】会議概要

会 議 名	令和6年度 【第1回足立区地域自立支援協議会こども部会】
事 務 局	福祉部 障がい福祉センター
開催年月日	令和6年6月25日（火）
開催時間	午後2時00分 ～ 午後4時00分
開催場所	障がい福祉センター 5階 ホール
出席者	小谷 博子部会長 榮 幸世委員 小長井 亜希子委員 相澤 政子委員 寺山 早苗委員 相澤 まり子委員 川松 佳緒里委員 古里 宏子委員 池村 愛委員 辰田 雄一委員 河野 正恵委員 石原 雅子委員 山本 克広委員 佐野 紘己オブザーバー（うめだ・あけぼの学園副園長） 高橋 徹オブザーバー（こども家庭相談課 課長） 傳野 千世オブザーバー（東部保健センター）
欠席者	酒井 康年委員 神保 義博委員
会議次第	1 開会 （1） 障がい福祉センター所長挨拶 （2） 委員紹介 （3） 事務局紹介 （4） 経過報告 2 議事 （1） 部会長挨拶 （2） 今年度の課題について （3） 協議 （4） 事務連絡 3 閉会
資料	1 こども部会次第（裏面 席次） 2 令和6年度足立区自立支援協議会こども部会活動計画書 3 令和6年度自立支援協議会こども部会名簿 4 各所属パンフレット、チラシ
その他	公開状況：公開 傍聴：2名

様式第2号（第3条関係）

1 開会

【司会】

只今より令和6年度第1回足立区地域自立支援協議会こども部会を開催いたします。本日はお忙しい中、こども部会にご出席いただき誠にありがとうございます。

進行を務めさせていただきます、障がい福祉センター職員の杉山と申します。

協議に先立ちまして何点かご案内をいたします。

まず、委嘱状についてですが、本来ならば、足立区長よりお渡しいたしますところ、大変恐縮ではございますが、協議時間を十分とらせていただくために、委嘱状をあらかじめ席上に配付させていただきました。何卒、ご理解の程よろしくお願いいたします。

この自立支援協議会こども部会は発言、会議内容及び発言者名などについて、後日会議録をホームページに公開いたします。会議録作成のため、録音をさせていただいております。また、本日の部会は、公開しており、傍聴席を設けておりますことを、ご了承ください。

事務連絡は以上となります。

それでは、令和6年度第1回足立区地域自立支援協議会こども部会を開会いたします。次第に沿って進行してまいります。よろしくお願いいたします。

はじめに、当センター所長山本よりご挨拶申し上げます。山本所長よろしくお願いいたします。

（1）障がい福祉センター所長挨拶

【山本委員（障がい福祉センター）】

みなさま、こんにちは。障がい福祉センタ

ーあしすと所長の山本でございます。本日は令和6年度足立区地域自立支援協議会こども部会、新しい委員の方もお迎えしての第1回目の部会ということですが、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

足立区地域自立支援協議会の目的は、障がいのある方が普通に暮らせる地域づくりの実現を目指し、地域における課題や取り組みの情報共有や解決に向けた協議をしていくことです。その本会議が6月7日に開催されまして、本日のこども部会の活動計画も了承されたところでございます。今年度3回にわたる会議となりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは最後まで、どうぞよろしくお願いいたします。

（2）委員紹介

【司会】

委員等のご紹介に移ります。お名前をお呼びいたしますので、お名前を呼ばれました方はご起立いただき、マスク着用のままで結構ですので会場の皆様にお顔をお見せくださいますようお願いいたします。部会長より、名簿順に委員のご紹介をいたします。

～ 部会長・新委員・委員紹介 ～

（3）事務局紹介

【司会】

続きまして事務局の紹介に移ります。

～ 事務局紹介 ～

（4）経過報告

【司会】

これまでの活動を事務局の浅輪より報告させていただきます。

【浅輪（障がい福祉センター）】

改めまして皆様、今年度もよろしくお願いいたします。只今、司会の杉山からもご紹介

介がございましたが、新しい委員の方も加わっていただき、皆様、本当にありがとうございます。また、引き続き前クールから委員をお勤めいただく皆様も、よろしくお願いいたします。

では、私から部会のこれまでの経過をお伝えさせていただきます。

自立支援協議会の目的につきましては、先ほど所長の挨拶の中にもありましたが、障害者総合支援法という法律に位置づけられております。足立区におきましては、6つの専門部会がございまして、くらし部会、相談支援部会、はたらく部会、精神医療部会、権利擁護部会、そしてこども部会と、この6つの専門部会で協議を重ねまして地域の障がいのある方の自立に向け、協議してまいります。基本的に2年を一区切りといたしまして、2年間、同じ方に委員をお勤めいただき、部会も継続していただいております。ちょうど昨年度末で3クール、6年間で終わったところでして、一区切り、また、令和6年、令和7年度で新しいテーマで協議を重ねていくという流れになっております。

前回までの取り組みや内容につきましては協議の中でも出てくるかと思いますが、主に「連携」や「切れ目のない支援」ということを取り扱ってまいりました。ただ、途中コロナ禍ということもありまして、なかなか対面での開催が難しく、書面での開催等を重ねて、関係機関の皆様の理解を深めつつ、対面がかなったころには、対面での協議をすることで理解につなげていきました。

昨年度のまとめを申しますと、「切れ目のない支援」、乳幼児期から成人期までを、つないでいくことはできたけれども、一方で「横の連携」は必要ではないか、というよう

な意見も出まして、今期については皆様からのご意見もいただきながらですが、主に「横の連携」について取り組んでいこう、ということで、年間3回行っていく部会の会場を2回は委員の方のご所属でさせていただく予定です。次第の方にもございますが、次回10月3日については、小谷部会長のご所属の東京未来大学をお借りいたしまして施設見学とこども部会の実施を考えております。

3回目につきましては、古里先生のご所属であります都立花畑学園、そちらの方を予定しております。日程はまだ決まっておりますませんが、決まり次第ご案内をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上で経過報告を終了させていただきます。

2 議事

(1) 報告

続きまして本日の議事に入らせていただきます。部会長であります小谷先生、よろしくお願いいたします。

【小谷部会長（東京未来大学）】

ご紹介ありがとうございます。東京未来大学の小谷です。4月に2名の車いすの学生が入りまして、だいぶ社会が障がい者について学ぶ姿、就職したりなど、変わりつつあるなと考えるところです。ただ、大学が利用する駅は行きと帰りで通る場所を変えなくてはならないところがあり、まだまだ課題があるなと感じています。

皆様も、それぞれの所属で感じる課題もおありだと思いますので、ぜひ、お聞かせいただいて、それぞれの課題について解決できる手立てなどを皆さんで考える機会にで

できればいいなと思います。今日はどうぞよろしく願いいたします。

では、足立区地域自立支援協議会こども部会活動計画書がありますが、改めてご紹介させていただきます。

まず部会の目的として、「さまざまな立場からこどもの支援にかかわっている足立区内の15の機関・団体関係者が一堂に会し、区内の子どもの置かれている状況の共通理解と情報共有、更には課題の共有を図る。また、そこから建設的かつ具体的に関係者が単独あるいは協働してやるべきこと、やれたら良いことを考え、行政に向けての提案などに繋がる協議・議論を多面的かつ具体的に展開する場とする。」ということで、今年度の重点課題といたしまして、「各機関の活動内容等について情報共有し、『横の連携』をテーマに、顔の見えるつながりについて検討していく」「部会の会場を委員の所属機関で実施することで施設を理解し、より深い議論につなげていく」ということになっています。

今後の予定では、先ほども紹介がありましたが、10月は本学で行います。花畑学園の先生方にも車いすの学生の学ぶ姿など見ていただきたいのですが、こんなやり方もある、と参考にしたいと思います。

教室に入れない学生は後ろの方に席を置いていたり、車いすの学生の学んでいる姿とか、様々な現状を是非見ていただきたいと思っています。

今日は、課題の提示もありますが、初回の部分もございますので、私から振る形になりますが、皆様の自己紹介もかねて

課題等ございましたらお願いいたします。

私も花畑学園には学生のボランティアなどでもお世話になっていまして、校長先生も新しく着任されたということもあり、ぜひ、変わったところなどもご紹介していただきたいと思います。

【古里委員（都立花畑学園）】

都立花畑学園で、コーディネーターをしております、古里と申します。花畑学園は、肢体部門と知的部門に分かれていて、知的は小中、肢体は小中高と分かれているところが大きな特徴となっています。

校舎が新しくなりまして、今はプールが始まったのですが、プールまでは一番端のところから長い廊下を歩いていっています。

花畑学園の前身は、城北特別支援学校と南花畑特別支援学校と、隣り合わせた学校だったのですが、一緒になって花畑学園となりました。ちょうどスタートがコロナ禍と言うことがありまして、様々なことができなくなって、それが数年続いたということでしたが、ようやく最近はコロナ前の様々なことができるようになってきました。生徒数は肢体と知的合わせ450人ほどですが、研修会などもしています。

コミュニケーションシンボル連携会議、と言うものがありまして参加可能ですので今後もぜひよろしくお願いいたします。

【小谷部会長（東京未来大学）】

では次に、花畑学園の生徒さんが放課後お世話になっているかと思いますが、放課後等デイサービスのハートぽっぽEASTさん、お願いいたします。

【相澤委員（ハートぽっぽEAST）】

皆さん、こんにちは。ハートぽっぽEASTの相澤です。よろしくお願いいたします。

ハートぽっぽEASTはハートぽっぽの運営する児童福祉施設と言うことで、花畑学園の生徒さんは、放課後デイサービスの利用をしています。利用者は36名、1日定員10名をスタッフ8名でサポートしています。

地域連携ということでネットワークを作っていきたいと思っています。6事業所で話し合って何かやろう、ということで連携して運動会を行いました。

月に1回「さろんどぽっぽ」と言うものを開いて、地域の皆さんに集まっていたいて、おしゃべりしていただいたりしているところです。

【小谷部会長（東京未来大学）】

ありがとうございます。支援学校との連携はいかがですか。連絡などのやり取りが必要ですが、どうでしょうか。

【相澤委員（ハートぽっぽEAST）】

こちらの方ではいつもきちんと情報共有していただいています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

ありがとうございます。

東京都の児童相談所についての情報や現状などお聞かせいただければと思います。

【辰田委員（児童相談所）】

児童福祉法が改正されて、東京都から離れて各自治体が児童相談所を作っていくようになり、世田谷区など区によってはこども家庭支援センターと児童相談所を別々に運営しているところもあれば、荒川区、江戸川区など一体としてやっていく、と言うところもあります。メリット、デメリットもそれぞれありますが、東京都は子どもを一時保護する、と言う権限があります。区はショートステイなどをしていき、両方のメリッ

トを生かして連携協力していくということです。

都には10ヶ所の児童相談所があり、練馬区はこども家庭支援センターと東京都練馬児童相談所を今後は一本化していく、と言うことも考えているようです。

東京都は今後、人材育成などノウハウを生かしながら展開していく、ということです。

【小谷部会長（東京未来大学）】

ありがとうございます。引き続き、足立区の子育ての現状についてなどお聞かせください。よろしくお願いいたします。

【高橋オブザーバー（こども家庭相談課）】

こども支援センターげんき所長が欠席のため、オブザーバーとして参加させていただきます。

一般的に「児童相談所」と「こども家庭支援センター」と言われるものですが、他の区の「こども家庭支援センター」と足立区の「こども支援センターげんき」とは機能が少し違います。げんきには他の区の「こども家庭支援センター」の部分と、「教育相談センター」の機能が一体となっている、そこが他の区と大きく違っている、とご理解いただければと思います。

1階は「こども家庭支援センター」、2階は「教育相談センター」と言う役割をしています。こども部会と関連することですが、教育相談センターの部分で「発達相談」も受けています。7、8年前になりますが、障がい福祉センターの幼児発達支援室の発達相談の部分に移管して、こども支援センターげんきの中の発達支援係が相談を受けています。いきなり障がい福祉センターに相談するのではなく、こども部門の方に相談し、紹

介されるといった流れとなっています。

こども支援センターげんきでは、未就学児の発達相談の最初のステップから、就学相談、学校内のコミュニケーションの教室とされています特別支援教室、不登校問題についても扱っています。主に3部門からなるセンターであることは、他の区とは違う働きを持っている、ということです。

【小谷部会長（東京未来大学）】

ありがとうございます。質問ですが、障がいのあるお子さんに対しての通報、例えば虐待の疑いがあります、と通報があったときの他の機関との連携はどういう流れになっているのでしょうか。通報はまずげんきに入るのでしょうか。

【高橋オブザーバー（こども家庭相談課）】

児相と両方に入ります。「189（いちはやく）」という番号がありますが、この番号で直接児童相談所に入る場合もあります。

【小谷部会長（東京未来大学）】

例えばお子さんによっては特性でパニックになってしまい、大声で泣いたり騒いだりして、それを見た近所の方が勘違いして虐待だと通報したが、保護者はどうしていいかわからず困っていた、と言う場合、連絡などはどのようになっていますか。

【高橋オブザーバー（こども家庭相談課）】

通報があった場合、児相も周辺調査を行い、保護者のかかわり方などを指導します。

障がい児に関しての通報は区で対応する部分が多く、周辺調査や聞き取りをして、ニーズを引き出し、支援へつなげていく、という流れになっています。

【辰田委員（児童相談所）】

通報がありましたら、まず児童相談所として確認を取り、保護者のかかわり方を考

えたり、関係性を調べて修復できそうか、相談が入っているか、等を一緒に考えたりしていきます。

【小谷部会長（東京未来大学）】

ありがとうございます。次に地域の方の立場として、民生委員さんが詳しいかと思えます。自己紹介もかねてお話しください。

【相澤委員（民生・児童委員）】

民生・児童委員の相澤と申します。よろしく願いいたします。私は知的障がいのお子さんのデイサービスのお手伝いもしております。

知的障がいのお子さんは、どこでスイッチが入って暴れるのか、毎日見ていてもわからないことがあるのですが、たぶん理由があって叩いたり、引っかいたりがあるので、こちらが十分に理解してあげて、ケガをしないように、例えば、転がる前にシートを敷いてあげるなど、最低限のことはしてあげたいと思っています。

虐待なんて言われてしまっっては、保護者の方はかわいそうだなと今聞いていました。昔に比べて、今は支援の必要なお子さんが本当に多くなっている、と感じます。保護者の方は皆さん一生懸命で、どこに相談したらいいのかわからない、とよく聞きますので、相談できる場所や発散できる場所がもう少し身近にあるといいのかなと思っています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

ありがとうございます。では、保護者の立場からどうでしょうか、よろしくお願いいたします。

【榮委員（足立区手をつなぐ親の会）】

足立区手をつなぐ親の会から来ました。役職は会計なのですが、私には子どもが4

人いて、(中略)今、支援学校では先生が足りない、という現状があり、私が先生になろうと通信の大学に進学し、教員免許を取るために勉強をしています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

ありがとうございました。では、続いて肢体不自由児者父母の会の小長井委員、よろしく願いいたします。

【小長井委員（肢体不自由児者父母の会）】

肢体不自由児者父母の会の小長井と申します。(中略)肢体不自由児は体重の増加が課題で、「トイレ、どうしてる?」「お風呂、どうしてる?」と、保護者で会えば話しています。移動するにも動けないことが多く、外出を拒む要因となっています。

高等部になると進学問題があり、やはり自分で身の回りのことをできないと就職できないということとして、「支援学校からは就職は難しいよ」と言われていて、どうなるのかな、というところです。

【小谷部会長（東京未来大学）】

ありがとうございます。先日ですが、東京未来大の学生と、花畑学園の生徒さんとで給食を食べる機会があり、その時に「私の体を見てどう思いますか」と言う肢体不自由のクラスの中学生の方がおりました。学生たちもびっくりしていましたが、答える言葉を紡ぎながら話していました。改めて深く考える経験になったな、ということと、これからどう生きるのか、将来のことなどとても真剣に考えているな、と感じましたし、その道を作っていかなくてはいけないと考えます。

18歳以降の問題は足立区だけの問題ではなく、親亡き後のことも含めての課題であると思っています。

障がいのあるお子さんだけではなく、そのきょうだい児についても課題はあります。この話題について、先ず学校現場はどうか、保育や幼稚園の現場はどうか、足立つくし幼稚園の様子などをお聞かせください。

【寺山委員（足立つくし幼稚園）】

足立つくし幼稚園の寺山です。障がい児については保護者の方も手厚く丁寧を考えているのですが、きょうだい児についてはなかなかそうもいかず、「もっと私の方を見て」というようなお子さんが多いです。

私どもの幼稚園では、職員の加配や加算等もないので、できることも限られてしまうのですが、学校を不登校になってしまったきょうだい児のサポートとして、幼稚園の空き教室を提供して自習室を作ろうか、と提案したところ、保護者の方で「私が見ます」とのご回答をつい先日いただいたところです。

近隣住人の通報などでよく問い合わせをいただきますが、困っている保護者の方のお話をよく聞くことなど、支援できることを探していくこと、私立幼稚園としてできることはまだまだあるのではないかと考えています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

ありがとうございます。積極的に(障がい児を)受け入れているわけではないが、割と多い、ということですか。

【寺山委員（足立つくし幼稚園）】

多いですが、他の幼稚園も多いと思いますし、増えていると感じます。支援が必要と思われるお子さんは、どの幼稚園でも全体の1割はいるようです。ただ、診断書がなく、加配にできなかったということも多いです。あしすとやうめだ・あけぼの学園に通

っているお子さんは連携をとるようにしています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

幼稚園の後に放課後等デイサービスに通っているお子さんもいますか。

【寺山委員（足立つくし幼稚園）】

行きたいという希望があっても、実際には入れないケースが多いです。人気があっても入れない状態です。未就学児の事業所ももっと増えるといいですね。集団ではなく、細かいケアの必要なお子さんも多いので、切望しています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

どうもありがとうございました。本日は保健センターからも来ていただいています。東部保健センター地域保健係より来ていただいています。妊娠期から支援がスタートしている、という現状をお聞かせいただければと思います。

【傳野オブザーバー（東部保健センター）】

傳野と申します。保健センターは、お子さんのことでは主に妊娠期から乳幼児期を中心ににかかわっています。

妊娠期では、保健センターや保健予防課で妊婦面接「スマイルママ面接」を行っています。その面接では妊娠の経過や心配事などについて情報提供やご相談を受けています。情報提供では、障がいのリスクや将来的な生活習慣病になりやすい未熟児・低体重児での出生の予防のため、もともとの体型に合わせた妊婦さんの体重管理についてお伝えしています。また、妊娠何週の時に、おなかの赤ちゃんがどう育っていて、お母さんのからだはどう変化し、何が必要なのか・何に気をつけなければいけないかを説明しています。

「スマイルママ面接」では、経済的な支援として、育児パッケージ「こども商品券」1万円分、令和5年度からは国の取り組みで、妊娠・出産時にそれぞれ5万円分、ただし出産時は都が5万円分上乗せし10万円分のギフトクーポンを配付する申請書をお渡ししています。

お子さんが生まれた後は、こんにちは赤ちゃん訪問、3～4か月児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診等を行っています。1歳6か月児健診、3歳児健診では、こども支援センターげんきから心理相談員が来てアドバイスをしています。早期から療育につなげる保護者がいる一方で、全く心配していないという保護者の方もおられます。健診未受診者もフォローをしています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

東京女子医科大学付属足立医療センターができたことで、何か変化はありますか。

【傳野オブザーバー（東部保健センター）】

足立医療センターは江北保健センター管内にあります。保健センターと足立医療センターの位置によって件数は違いますが、情報連携が必要に応じてなされています。

精神疾患のある方が妊娠・出産された場合、産科と小児科から情報提供されることがあります。産後うつ、EPDS高得点者については、赤ちゃん訪問を早めに実施するというのもしています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

ありがとうございました。それではうめだ・あけぼの学園さん、よろしくお願いいたします。

【佐野オブザーバー（うめだ・あけぼの学園）】

委員は本日所用で欠席ですので、オブザ

ーバーとして出席しております。

うめだ・あけぼの学園は主に乳幼児期のお子さんで、施設自体はそんなに大きいわけではありませんが、300名弱くらいのお子さんが利用しています。

通っている頻度が、毎日通う週5日のグループと、毎日ではない週1回通所のグループがあります。通所は保護者と一緒に来てもらって、保護者も一緒に療育を行うことに力を入れています。どのコースをご利用の方も、必ず週に1度は保護者の方に来ていただくことになっています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

ありがとうございました。うめだ・あけぼの学園さんは主に知的な遅れのあるお子さん対象ですが、主に肢体のお子さんの施設ということで、次に城北分園さん、お願いいたします。

【河野委員（北療育医療センター・城北分園）】

北療育医療センター・城北分園に今年4月より配属されましたソーシャルワーカーの河野と申します。城北分園は小児科と整形外科の外来診療部門と、幼児の通所、学校を卒業した後の生活介護の通所部門を持っています。

私は主に外来の初診の方の電話でのお問い合わせに対応する窓口をやらせていただいています。

お問い合わせいただくきっかけは、医療機関やこども支援センターげんきからの紹介や、保護者の方自身が発達を心配されて、という場合などがあります。

【小谷部会長（東京未来大学）】

今年度から医療型、福祉型というものがなくなって、何か変化はありましたか。

【河野委員（北療育医療センター・城北分園）】

まだ大きな変化はありませんが、実際にどのように対応していけるのかは模索中です。

【小谷部会長（東京未来大学）】

学童期には花畑学園に進むお子さんが多いですか。

【河野委員（北療育医療センター・城北分園）】

花畑学園が多いです。他には盲、聾のお子さんは葛飾盲学校に進むお子さんや、支援級に進むお子さんもいます。

【小谷部会長（東京未来大学）】

進路などの仕組み、保護者の方の希望などはどのようになっているのですか。

【古里委員（花畑学園）】

就学相談についてはこども支援センターげんきを案内します。あしすとやうめだ・あけぼの学園からも就学相談として紹介があると思います。申し込みの後、こども支援センターげんきで検査を行い、就学支援委員会等で審議の後決定します。

今現在、花畑学園では学校公開や見学会を行っています。肢体、知的合わせて40名ほど参加されていますが、全員が花畑学園を希望するわけではないです。

【小谷部会長（東京未来大学）】

ありがとうございました。今、支援級が増加している、と聞きます。インクルーシブとも盛んに言われていますが、現場はいかがでしょうか、お聞かせください。

【池村委員（千寿桜小学校）】

千寿桜小学校の池村と申します。今年度からこども部会の委員となりました。よろしく願いいたします。

本校に赴任したのは6年前ですが、通常級の担任をしていました。今は本校にある特別支援学級の教員をして2年目です。(中略)

課題は、校内体制が取れていないと感じることです。特別支援学級こそ教員の教育指導力が必要であると考えますが、現状はそうではないことが多いです。

経験のある主任教諭と一緒に、今は子どもたちにも社会性やみんなで何か一つのことをする、という意識が少しずつついてきているところです。

子どもたちには、認められる機会というものがあることが本当に大事で、障がいのある子どもたちですが、自分ができない、わからない、くやしい、という思いは持っているので、できることを増やしてあげることで、子どもたちの満足度はあがり、顔つきも変わってきますし、そういった経験を蓄積することで自己肯定感が高められていけると思っています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

本来なら特別支援学校、というお子さんなど、いらっしやいますか。

【池村委員（千寿桜小学校）】

適正就学はなされているのか、と言う課題ですが、本来なら特別支援学校が適性ではないか、と思われるお子さんや、反対に、適切な支援を受けられていたら通常級でよかったのではないか、という高学年のお子さんも支援級に通っています。

通常学級から来たお子さんは、「リタイヤ」した、という思いがあるので、心のケアや、学級の中でそのお子さんのできることを探し、中学校に向けて取り組みをしています。

進学については、個々のお子さんの現状を考えて、保護者も納得できるようなところを一緒に考えて進めています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

ありがとうございました。次に、保育園の現場のことをお聞きしたいです。働いている保護者の方にどのようにアプローチしているのか、いかがでしょうか。

【石原委員（あやせ保育園）】

今年度からあやせ保育園の園長になりました。昨年度まで課の方で区立保育園全体の支援にあたっていたので、皆様方には大変お世話になっていて、保健センターの方には医療的ケア児についてお話を聞いたり、花畑学園の先生方には発達支援コーディネーターの連携会議でお世話になっていたり、城北分園やうめだ・あけぼの学園には療育のことで区立園も一緒に対応していくということで大変お世話になっています。東綾瀬保育園で対応している医療的ケア児ですが、対応する園も3園から5園に拡大し、学校へとつないでいくという仕事も昨年までしていました。

あやせ保育園は聾学校と連携していますので、子どもたちは聾学校で遊んだり、あやせ保育園で遊んだりしています。

車いすで通っていらっしゃるお子さんもいます。当園は2階施設で階段が使えないので、保護者の方がおんぶしながら2階まで連れてきていただいたり、保育中は職員が抱っこして1階に連れて行ったりしています。プール遊びなどは椅子を用意して座って一緒に遊んでいます。このように区立園ではインクルーシブ保育をしています。

様々な機関とつながりのあるお子さんは、各機関からの見守り体制ができていますが、

どの機関ともつながってこなかったお子さんには、家庭の状況を知ること、具体的な支援に保育園がつなげていく役割を担っています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

ありがとうございます。最後になってしまいましたが、障がいのあるお子さんをお持ちの保護者の方に向けてのペアレントメンター事業を足立区では長くかかわっていらした、ということで、川松委員、よろしくお願い致します。

【川松委員（ねっとワーキング）】

ねっとワーキングの川松と申します。2016年から8年間取り組んできましたペアレントメンタースタイルが、委託から足立区との協定、と言いう形に変わり、団体として登録いたしました。

場所もこども支援センターげんきの5階に相談室を設け実施しています。区のPRの効果もあり、相談件数はアップしています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

やはり、区の施設に移ったことは効果があった、と言うことでしょうか。そのあたり、こども支援センターげんきとしてはいかがですか。

【高橋オブザーバー（こども家庭相談課）】

私は直接かかわってはいませんが、確かにこども支援センターげんきは、敷居が低いのかな、発達相談も、あしすとにあったときよりも保護者の方からすれば話しやすいのかな、ということを考えますと、場所を移したことでより話しやすく、相談しやすくなったのではないのでしょうか。

【小谷部会長（東京未来大学）】

こどもショートステイのことなどもお聞

かせいただけますか。

【高橋オブザーバー（こども家庭相談課）】

こどもショートステイ事業は、1歳6ヶ月から小学生（12歳）までのいわゆるお泊り、児童養護施設なのですが、施設型と在宅型があります。特性のあるお子さん、他害があるお子さんをご家庭での養育が困難である、という場合などに利用していただいています。

ショートステイはあくまで一時のことで、ご家庭でお子さんに対しての養育をいかに充実していくかが大切なので、この仕組みを生かしていきたいと思っています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

利用する保護者の方に発達障がいがある、というケースなどありますか。

【高橋オブザーバー（こども家庭相談課）】

障がいに対して認識して、お子さんへのかかわりをどうしていくかを考え、変えていかなければならないところですが、変わる人とそうでない人、メンタルだったり、理解はしているけれどやはり変えられない、そのあたりを十分に話し合っていかなければならないと思います。

【小谷部会長（東京未来大学）】

児童相談所としてはいかがでしょうか。今のお話のように、保護者の方の特性や、生い立ち、自分が叩かれて育ったので、そうすることがしつけだという認識の方、などケースがあると思いますが、そういったところまで入っていくのか、お子さんだけ守るのか、そのあたりをお話してください。

【辰田委員（足立児童相談所）】

かかわり方の問題の解決としてペアレントトレーニングがあると思いますが、変わろうという意思のある保護者さんであって、

これに対してはどうすれば、ということを経り返す中で支援していくのだと思います。また、一度良かったからとそれで終わりではないので、児童相談所としてやれることをやっていくことが大事だと思っています。

【小谷部会長（東京未来大学）】

ありがとうございます。

川松委員、何かありますでしょうか。

【川松委員（ねっとワーキング）】

利用するにあたり、「足立区ペアレントメンター」で検索すると専用ページにつながるようになりまし、電話番号ものっていますので、何かありましたら活用していただきたいです。

場所がこども支援センターげんきになったことで信頼性が増したのか件数も多く、切実な相談も増えました。

【相澤委員（はーとぼっぽEAST）】

ペアレントメンターの研修をうちのスタッフが利用させていただいて、とても効果的だったということで、相談会や研修会など今後もありますか。

【川松委員（ねっとワーキング）】

今後もやっていく予定です。ぜひ、ご活用いただきたいと思います。

【小谷部会長（東京未来大学）】

ありがとうございます。

では、障がい福祉センター事務局としてこれまでの話を聞いて、何かありますでしょうか。

【浅輪（障がい福祉センター・事務局）】

今回新しい委員の方が加わってお話を聞く中で、テーマを「横の連携」としてはいますが、それぞれのところで既にできている部分もあるのかな、例えば、つながりが全くなかった方も保育所に入園して必要な機関

につながるケースや、花畑学園と放課後等デイサービスとの連携など部分部分ではできていると感じました。

ただ一方で、まだどこにもつながっていないケースや、これだけたくさんの支援があってもまだまだ支援が行き届かないというケースもあります。就学前のお子さんならあしすと、不登校ならこども支援センターげんきのチャレンジ学級、中学生なら学びの多様な学校などもできました。実際に学校に通っていらっしゃる方の支援となると基本は学校で支援をしてもらう、ということになります。いろいろな制度ができてはまだ課題はある、そういったときに皆さんからお知恵をいただきたいところです。

実はこの4月に福祉部に「福祉まるごと相談課」というものができました。今までは福祉といっても障がいはここ、高齢はこっち、と別れていた相談窓口をここで総合的に受け入れる、という仕組みを始めました。そうしたところ、相談件数は多いと聞いております。

例えば障がいに関しても年齢や機関を超えた相談場所のようなもの、ここに相談すればいろいろな情報がもらえるよ、というものがあるといいのかな、と感じました。

【山本委員（障がい福祉センター）】

福祉まるごと相談課、の話が出ましたが、「これは保健所かな」という判断を、今まではご本人にさせていたのかな、ということもあり、なかなか相談しにくかったかな、と感じます。まずは「福祉まるごと相談課」の窓口へ、テーマは別としてお出ししていくこともいいのかなと思います。

件数が多いこともそうですが、見えてきたものは、一つの相談の背景に3つ4つの

課題がある、そこまで深掘りして一つひとつ解決に結び付けていく、そういった解決の仕方ができるようになった、ということです。

お手元の資料にあしすとのピンク色のパンフレットがありますが、ご参考にしていただければと思います。

あしすとの療育は通所と外来個別があり、未就学児を対象に療育を行っています。最近変わったことを申しますと、集団通所部門がこれまで未就園児が対象でしたが、保育所や幼稚園、こども園とも併用ができるようになりました。併用したいという需要の高まりを受けて、令和5年度から受け入れることにしたところ、すでに定員いっぱいということになっています。

もう一つは外来個別指導の相談件数が毎年増えていまして、受け入れますが、療育をひと月に一回も受けられず、ふた月に一回程度しか対応できないと支援の頻度も低かったのですが、令和7年度4月に旧千寿第五小学校の跡地に新しく児童発達支援センターができる、ということで、ひよこにとっては療育の頻度が上がっていくことになり、区民のサービス向上につながるようになります。

【小谷部会長（東京未来大学）】

足立区の児童発達支援センターが4つになるということですね。区としての見解をお聞かせください。

【浅輪（障がい福祉センター・事務局）】

山本所長よりお話がありましたが、足立区にお住まいの方の療育の需要がこの10年間で2倍に増えています。また、現場の皆様もお気づきかと思いますが、保護者の関心が非常に高まってきて早期に気付いて早

期に療育につなげたいという方が増えているかと思います。早期に療育を受けることでその後の学齢になったときのお子さんの状態にもいろいろな変化がある、ということもわかってきているので、それだけ需要があります。

現在は区立では障がい福祉センター児童発達支援室、都立では北療育医療センター城北分園、民間ではうめだ・あけぼの学園の3か所だけで、その需要に十分お応えするだけの療育を提供するのがなかなか難しく、必要な時期に必要な頻度でお子様たちに療育を提供したい、それには新しい児童発達支援センターを作る必要がある、ということでプロポーザルをしたところ、学校法人三幸学園で受けていただくことになったということです。

足立区の地形、地理を考えますと綾瀬川以東の東地区に施設を作りたいところでしたが、適した場所が見つからず、先ほどの場所にできる、ということです。あしすとが足立区の西側、三幸学園で東側を担当いただきながら、今、待っていらっしゃる保護者の方、お子さんたちに療育を、ということを考えています。できました暁には4所で連携を深めながら足並みをそろえていければと、また、こども部会の皆様からのご意見をいただければと思っております。

【小谷部会長（東京未来大学）】

ありがとうございました。

（4）事務連絡

【司会】

小谷部会長、委員のみなさまありがとうございました。

会議議事録につきましては、事務局で案を作成いたしまして委員の皆様には後日お

送りします。ご確認いただいて、お戻しいただいたものをもとに修正し、足立区ホームページに掲載させていただきます。

2 回目の協議会のスケジュールですが、10月3日の午後の時間に予定しています。スケジュールも含めて詳細を後日案内させていただきます。事務連絡は以上です。

3 閉会

【司会】

以上をもちまして、令和6年度第1回足立区地域自立支援協議会こども部会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。お帰り際にはお忘れ物などないようお気をつけください。